2022 年度　教員の自己点検・自己評価計画書

所属学部　学科	職位	氏　　名
人間健康学部 人間健康学科	助教	松田　凌
最終学歴	学　位	専門分野
中京大学大学院	博士（心理学）	臨床心理学

Ⅰ　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

他者の幸せを願い，自己の倖せをかなえる人材の育成

（目標）

社会問題の一つであるメンタルヘルスに係る諸問題の予防・解決に取り組める「真に信頼して事を任せうる人格」を有する人材を育成する。

（方針）

心理学分野の多彩な知見を提供し，自律的に問題意識をもち考える機会を提供することで，社会や日常生活で起こり得る困難へ対処する力を身につけることをサポートする。

（計画）

心理学分野の様々な授業を通して，メンタルヘルスに係る問題へ積極的に関心を向け，その解決を担えるよう人材の育成を行う。具体的には，講義を通した正しい知識の提供と，実践を見据えた演習時間を両立させることで，知識・スキルともに身に着け社会に役立つ人材を輩出する。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

教育相談（中・高）、障害者・障害児心理学、福祉心理学、基礎演習Ⅰ、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ

（後期）

司法・犯罪心理学、産業・組織心理学、感情・人格心理学、基礎演習Ⅱ、専門演習Ⅱ、
専門演習Ⅳ、人間健康特講Ⅰ（健康実践）、卒業研究

○教育方法の実践

講義系の授業では，毎回の小テストを課す，穴抜き資料を配布するなど，受講生が主体的に講義へ参加するような仕組みを取り入れた。また授業資料（PDF）を配布することで，講義内容の復習を容易にし，加えてレポート課題を課すことで欠席学生の平常点への配慮を努めた。

○作成した教科書・教材

特になし。

○自己評価

概ね計画通りに教育を提供することができた。また心理系大学院への進学を希望する学生の受験勉強，研究計画にアドバイスをするなど，担当授業以外での教育活動にも勤しんだ。一方で，メンタルヘルスに係る諸問題やそれを取り巻く社会問題に対して積極的，主体的な関心を示す学生を増やす点については課題として残った。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

ロールシャッハ法及び描画法といった，心理臨床の実践で使用されているアセスメントツールの信頼性・妥当性を検証する。

○目標・計画

（目標）

上記の課題を目的とした研究報告を行う。大学生を対象とした基礎研究や，臨床現場で得たデータを用いた応用研究など，使用可能な環境は最大限活用しつつ，広範なアプローチから検討，報告を行えるよう尽力する。

（計画）

ロールシャッハ法については，反応産出過程の認知心理学的理解を目指した研究を計画しており，研究資金が獲得できれば実施する。また医療機関と連携し，精神疾患を抱える方のロールシャッハ法，描画法のデータを共有してもらえているため，研究としてまとめ学会及び論文にて報告する。

○2015 年 4 月から 2023 年 3 月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- 松田凌（2023）「人さまざま」な私たちが抱える心理的課題とその支援　人間健康学　第 17 章（p189-199）

（学術論文）

- 馬場史津・松田凌（2022）描画テストの解釈過程―解釈の基礎と所見― 中京大学心理学研究科・心理学部紀要 20(2),
- 松田凌（2021）ロールシャッハ法に現れる注意制御の困難さ―不快刺激へ注意が向きやすい 1 事例からの検討―　中京大学臨床心理相談室紀要 21, 15-27
- 松田凌（2021）高 ASD 傾向者のロールシャッハ反応―視覚的注意の機能に着目して―　中京大学心理学研究科・心理学部紀要 20(1), 43-54
- Matsuda, R. (2019) Multiple emotion regulation in Rorschach color responses: A study using IAT and self-report., Rorschachiana 40(2), 112-130
- 松田凌（2018）ロールシャッハ・テストの色彩反応と情動刺激によるストループ干渉の関連　ロールシャッハ法研究 22, 42-53
- 松田凌（2018）無気力を訴える高校生との面接過程に関する考察―心理検査の活用に焦点を当てて―　中京大学臨床心理相談室紀要 18, 1-8
- 松田凌・馬場史津（2017）ロールシャッハ反応産出過程における認知的制御の役割―情動ストループ課題を用いた検討―　中京大学心理学研究科・心理学部紀要 17(1), 53-61

（学会発表）

- 松田凌・馬場史津（2022）描き慣れた「木」に現れるもの，表れないもの―「本当の自分」を知りたい教師の事例から―　日本描画テスト・描画療法学会 第 31 回大会
- Matsuda, R. (2021) The effect of negative attentional bias on the Rorschach response process. 2021 Virtual SPA Convention, Poster, Pre-recorded sessions,
- 松田凌（2020）再評価と抑制が反応産出に与える影響―情緒的な反応内容に着目して―　日本ロールシャッハ学会第 24 回大会
- 松田凌（2018）損傷反応（MOR）と情報処理バイアスとの関連　日本ロールシャッハ学会第 22 回

大会

- 松田凌（2017）色彩反応と感情制御の方略および潜在的選好との関連　日本ロールシャッハ学会第 21 回大会
- 松田凌（2016）色彩反応と情緒刺激に対する注意の制御―情動ストループ課題を用いた検討―日本ロールシャッハ学会第 20 回大会

（特許）

特になし。

（その他）

特になし。

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

次年度の科学研究費補助金へ申請したが，不採択であった。

○所属学会

日本心理臨床学会, 日本ロールシャッハ学会, 日本心理学会, Society for Personality Assessment, 日本描画テスト・描画療法学会

○自己評価

着任初年度のため，授業準備に時間を要し十分な研究活動が行えなかった。２本の論文を執筆中であり，その他２本を投稿するなど，手元にあるデータを用いた研究活動には取り組めた。また学会発表も行い，他大学の研究者と交流する機会を得た。

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」のコンセプトを実現するため，保健・学生相談センター運営委員会として，そして臨床心理学を専門に掲げる教員として，学生支援に注力する。

（計画）

専門職として心理支援に携わっている経験を活かし，大学生活に困難をきたしている学生にきめ細やかな支援を提供する。また保健・学生相談センター運営委員会と十分な情報共有を行い，本学学生の大学生活をサポートする。

○学内委員等

保健・学生相談センター運営委員会，フットサルサークル顧問

○自己評価

保健・学生相談センター運営委員会の一員として，学生のメンタルヘルスや大学生活に関わる問題へ組織的に対処した。また学生からの依頼により，新規サークルの顧問を担当することとなり，大学生活満足度の向上に寄与した。

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

精神疾患への罹患をはじめ，メンタルヘルスの問題を抱える方が生きやすい社会の実現を目指す。

（計画）

臨床心理学的支援に関する研究を報告することで，心理支援職あるいはメンタルヘルスの問題を抱える方に役立つ知見を提供する。また心理支援職として医療機関に勤務することで，精神疾患を患う方の直接的な心理支援の役割を担う。

〇学会活動等

2023年度に開催予定である「日本ロールシャッハ学会 27回大会」の大会事務局のメンバーとして，大会運営に携わっている。

〇地域連携・社会貢献等

精神科クリニックで心理支援職として職務を全うし，メンタルヘルスの問題を抱える人への支援を提供した。また高校生向けの出張授業では，心理支援職の業務を紹介するなど，人の健康を支える職業への関心を高めるよう努めた。

〇自己評価

学会の大会運営・準備に携わる，高校生・大学生に向け心理専門職の魅力を発信するといった形で，臨床心理学という学問領域に寄与した。また医療現場に心理専門職の立場から携わることで，支援を要する人を援助するだけでなく，その経験を教育活動に活かすことができたと感じる。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

自身の臨床技術を高めるため，そして習得した技術を授業を通して教育に還元するために，専門学会や研修会・研究会等へ積極的に参加する。

Ⅵ　総括

着任初年度ということもあり，授業準備や本学学生への順応に多くの時間を要した。講義系の授業は初めて担当する科目も多く，加えてゼミを担当することも初めてであったが，授業運営に概ね問題はなかったと思われる。また休講期間を中心に研究活動を進めることができ，僅かであったが成果として報告することができた。次年度はさらなる研究成果の蓄積を目的としたい。授業方法については，課題設定や資料配布など手探りながらも検討することができたため，それを次年度以降の教育活動にも活かしたい。

以　上